

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

デリカウイング株式会社
広島工場、デザート工場、東広島工場、岩国工場

(2) 事業所の所在地

広島工場	広島県廿日市市宮内工業団地2-5	(第二種エネルギー管理指定工場)
デザート工場	広島県廿日市市宮内工業団地1-2	(指定なし)
東広島工場	広島県東広島市吉川工業団地11-9	(第二種エネルギー管理指定工場)
岩国工場	山口県岩国市田原266-3	(指定なし、2019年度指定取消)

(3) 業種

広島工場	すし・弁当・調理パン製造業
デザート工場	生菓子製造業
東広島工場	そう(惣)菜製造業
岩国工場	そう(惣)菜製造業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成28年度(2016年度)を基準年度とし、平成29年度(2017年度)から令和元年度(2019年度)までの3年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量 (a)		目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)		計画期間の実績 (上段：実排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))							
	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
エネルギー 起源CO ₂			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー 起源CO ₂			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 実排出量総計			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス みなし排出量												
実績に対する 自己評価												

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 生産数量 (百万個)

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)		計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))							
		平成28年度	令和元年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和 年度	令和 年度			
エネルギー 起源CO ₂	133.82	129.80	-3.0	130.75	150.59	154.02	100.0	100.0			
非エネルギー 起源CO ₂		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
温室効果ガス 排出量総計	133.82	129.80	-3.0	130.75	150.59	154.02	100.0	100.0			
エネルギー消費原単位 (原油換算kL)	53.65	52.04	-3.0	52.39	62.48	67.02	100.0	100.0			
実績に対する 自己評価	エネルギー起源CO ₂ 量、エネルギー消費原単位 (原油換算 kL) とともに増加した。 東広島工場が平成30年8月より生産開始してエネルギー起源CO ₂ 原単位が悪化した。										

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

2018年度に東広島工場を竣工、製造を開始した。
 東広島工場の製造する製品は他工場と比較して付加価値があり、エネルギー使用量が多くなる。
 工場毎で付加価値（加熱・冷却製造方法、製品品目）の違いで、エネルギーの使用に係る原単位に
 大きな差が発生して、エネルギー起源のCO2排出原単位が悪化した。
 下記は基準年度に稼働していた3工場でまとめると、目標を達成している。

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： 生産数量（百万個）

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a) 平成28年度	目標年度		計画期間の実績 (上段:原単位実績(d), 下段:削減量の対基準年度比(e))			
		上段:目標 (b) 下段:削減率 (c) 令和元年度	平成29年度	平成30年度	令和1年度	令和 年度	令和 年度
エネルギー起源CO2	133.82	129.80 -3.0	130.75 2.3	121.51 9.2	117.09 12.5	100.0	100.0
非エネルギー起源CO2		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス 排出量総計	133.82	129.80 -3.0	130.75 2.3	121.51 9.2	117.09 12.5	100.0	100.0
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	53.65	52.04 -3.0	52.39 2.4	49.94 6.9	50.41 6.0	100.0	100.0
実績に対する 自己評価	基準年度に稼働していた3工場でまとめると、目標を達成している。						

※ 削減率(c) = ((b)-(a))/(a) × 100 削減量の対基準年度比(e) = ((a)-(d))/(a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減 改善の実行、他工場展開	L Pガス、都市ガス使用原単位の年 1%削減	①エネルギー見える化の検討 ②省エネ活動の推進 ③高効率蒸気ボイラーへ更新(3台) ④高効率番重洗浄機への更新(1台) ⑤ヒートポンプ給湯器導入(1台) ⑥蒸気配管保温強化(6箇所)
2	電気使用量の削減 改善の実行、他工場展開	電気使用原単位の年1%削減	①高効率空調機へ更新(49+14台) ②照明LEDへ更新(1859+579式) ③給排気自動制御化(14台) ④排水処理ばっ気プロアインバーター化(3台) ⑤高効率クーリングタワー化(1式) ⑥消灯活動の推進
3	CO2排出量削減ポテンシャル 診断結果に対する設備 改善実施	削減案件の抽出	①診断結果により設備投資計画立案 ②省エネルギー投資促進に向けた支援補助金を 活用して設備投資の実施(2018・2019年度実 施)
4	新工場(東広島工場)の 生産開始後の省エネ検討	電気・都市ガス使用量削減検討	①使用エネルギーの管理 ②設備投資を伴わない改善の実施

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み(環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。